

ヒロセハエトリを求めて

池田博明

What is the species of the salticid spider,
Hyctia Hiroseae Nakatsudi, 1942 ?

Hiro Yoshi Ikeda

ヒロセハエトリ *Hyctia Hiroseae* Nakatsudi は仲辻耕次氏が 1942 年に記載した種であるが、タイプ標本が失われたため、正体不明種となっていた。模式産地は神津島の属島のひとつ只苗島であった。神津島は伊豆七島のひとつであるが、この只苗島というのはいったいどんな島なのかがよく分からなかった。タイプ標本の採集年月日は 1936 年 7 月 26 日。仲辻氏が世話になったという廣瀬愛子氏に献名されている。このハエトリの正体を明らかにするには模式産地で同時日にクモを採集するしか方法がないようであった（小野, 1994）。幸い、1995 年の 7 月にその機会がめぐってきた。

伊豆大島のクモ採集をした後で、1995 年 7 月 26 日の午後に船で神津島へ向かった。一緒に伴満氏も同行された。仲辻氏がヒロセハエトリを採集してからちょうど 59 年目の同日であった。神津島港へ着いてさっそく港の案内所で、属島の只苗島に渡る方法を尋ねてみた。すると、その島には船が行っていないので渡れないというのだ。せっかく来たのに困ったことになった。どうしてもそこへ渡らないといけない事情を説明すると、その島は沖合いに浮かぶ無人の小島で、釣り客がたまに行く位であること、釣り舟をチャーターできれば行けるだろうということだった。船を一艘チャーターすると、いったいどれくらいお金がかかるものなのか、大変不安になったが、一人 5 千円くらいだろうという。そうしょっちゅう来られるところでもない。決心して、釣り舟も営業しているという民宿「甚三丸」を紹介してもらった。

甚三丸の奥さんの運転する小型車で島の西側を案内してもらった。只苗島は反対の島の東側にある三浦漁港の沖合いなので、今日は舟の手配などが間に合わない。明朝、釣り舟を都合してもらおうことになった。只苗島は別名、蛇島といわれているそうだが、蛇の多い島だからという説と、昔その島に放置された女を翌日迎えに行ってみたところ、髪の毛が恐怖で総毛だっていて蛇のようだったからという説があるという。どうも気持ちの悪い島のようなであった。蛇島には舟付き場がないので釣り舟の舳先から島へ跳び移らなければならないという。伴さんは大事をとって、蛇島へ渡るのを断念した。

翌朝、車で三浦漁港まで送ってもらった。結構大きな舟である。沖合いに目的の只苗島が見えた。島というよりも沖合いに出た岩塊にしか見えなかった。出港して 5 分位で到着した。舟の舳

先から岩場へ飛び移った。伴さんはそのまま戻って陸地でクモを採集する予定だ。午前8時である。4時間後に向かえに来てもらう約束で、いったん舟は引き上げていった。

岩塊を登ると只苗島という名の由来が分かった気がした。ほとんど樹木がなく、足元にはスゲの類が生えている。「ただ苗しかない」島という意味だと納得した。岩塊のいちばん上部には禾本科の植物があった。

ヒロセハエトリを探索し始めて1時間、まったくそれらしいハエトリは取れなかった。灌木の間でマミジロハエトリ雄が取れただけであった。次第に陽は高く、日差しは強くなる。樹木がないので、強い直射に頭がくらくらしてくる。

あきらめかけていたところで、幸運にもススキ様の葉上でそれらしいハエトリを発見した。メスの成体であった。「やった！59年ぶりの採集だ！」と興奮した。一見したところ既知のヤハズハエトリにそっくりである。勢いづいて探すと更に1頭のメスが採れた。こうなったらこのクモのオスも必要である。オスを採るまで頑張る気になった。ところがオスはなかなかいないのであった。岩塊を上へ行ったり、下へ行ったりしながら、眼を皿のようにして探した。崖の中央部でようやくオスの亜成体を発見した。このクモも一見ヤハズハエトリのオスのようだ。後は何十分探しても類似種を見つけることはできなかった。亜成体は飼育で成体にできればいいのだが。ほぼ2時間探し回って、ようやくそれらしきクモが取れた。まずまずの成果であろう。しかし、舟が来るまでにはまだ2時間もある。日向で待つのはかなり苦痛だった。海がきれいだった。洋服のまま海に入って泳ぎたくなかった。しかし、服のまま泳いだら、おぼれる危険が高い。水泳には自信がない。海に入る欲望をこらえた。時間通りに舟が戻ってきて、神津島の三浦漁港へ帰宅した。舟代は二人で9000円だった。

採集した個体を詳しく後で検討した結果、只苗島で採集したクモ(ヒロセハエトリ)はどうみても本州産のヤハズハエトリのメスと同種だった。亜成体オスは脱皮直前に死んでしまったが、これもヤハズハエトリのオス亜成体と同じだった。仲辻氏はヤハズハエトリのメスをヒロセハエトリとして記載したものと思わずにはいられなかった。

ヒロセハエトリの記載が掲載された仲辻氏の論文「伊豆七島産蜘蛛類に就て」を子細に検討してみると、次のようなことが分かる。

- (1) 記載されたヒロセハエトリの特徴はヤハズハエトリのメスの特徴とほぼ一致する。
- (2) ヤハズハエトリのオスは *Icius* 属の1種として *Icius elongatus* Karsch として只苗島から記載されている。
- (3) 仲辻文庫にはヤハズハエトリを記載したカルシュの論文(Karsch, 1879)もベーゼンベルグとシュトランの「日本のクモ」も見当たらないが、仲辻氏が同定の参考文献として論文中で挙げているのはベーゼンベルグとシュトランの「日本のクモ」であった。ところで、カルシュの論文にも「日本のクモ」にも、ヤハズハエトリ *Icius elongatus* Karsch はオスの記載しか載っていないのである。当時ヤハズハエトリのメスは不明であったと思われる。
- (4) 仲辻氏はヒロセハエトリについて鳥取県の船岡山でもこの種が採れたと記録していること

から、この種は各地に広く分布している種であったと思われる（小野,1994）。

(5) 仲辻氏はヒロセハエトリは *Hycitia bina* (Hentz,1845) に酷似すると書いている。*Hycitia bina* は北米産で、ヤハズハエトリによく似た種である（Gertch,1979）。もしも仲辻氏がヤハズハエトリのメスを正しく認識していたとしたら、わざわざ北米産の種と比較したりせずに、ヒロセハエトリはヤハズハエトリのメスに似ていると書くはずである。この記述は仲辻氏がヤハズハエトリのメスを認識していなかったことを表していると判断される。

上記の事情を考慮して、私はヒロセハエトリの正体はヤハズハエトリのメスだったと判断した。

仲辻および Karsch の論文に関しては小野展嗣博士（国立科学博物館）に便宜を図っていただいた。記して謝意を表する。

引用文献

- Bösenberg, W. E., & E. Strand, 1906. Japanische Spinnen. *Abh. senckenb. naturf. Ges.*, **30**:93 - 422, pls.3 - 9.
- Gertch, W. J., 1979. *American Spiders* (second ed.). 274pp. Van Nostrand Reinhold Company. New York. U.S.A.
- Karsch, F., 1879. Baustoffe zu einer Spinnenfauna von Japan. *Verh.naturf.Ver.der preussischen Rhein u.Westfalens* **36**:55 - 105.
- Nakatsudi, K., 1942. Arachnida from Izu-Sitito. *J.agr.Sci.Tokyo Nogyo Daigaku*, **1**:287 - 328, pls.XI - XII. (In Japanese with English resume.)
- 小野展嗣, 1994. 仲辻耕次氏が命名記載したクモ. *Acta arachnol.*, **43**:108 - 111.

付属資料：ヒロセハエトリ記載論文の英訳（池田博明訳）。

The description of *Hycitia hiroseae* Nakatsudi, 1942 translated from Japanese to English by H.Ikeda

Genus *Icius* Simon 1874

73. *Icius elongatus* Karsch

(Japanese name: Yahazu haetorigumo)

Icius elongatus: Bösenberg et Strand, 1906. *Abhandl. d. Senckenb. Naturf. Ges.*, XXX, s, 353.

Locality. Tadanaejima Island (belonged to Kozushima Islands).

Distribution. Japan: Honshu, Shikoku, Kyushu.

Sub-family Marpissinae
Genus *Hyctia* Simon, 1876

74. *Hyctia hiroseae*

(Japanese name: Hirose haetorigumo)

[Fig.6]

Measurement(in mm). Prosoma: length 4.6, width 3.6; Opisthosoma: length 9.0, width 3.8.

Color pattern. Prosoma blue black with red brown margin, covered irregularly with white setae. Mouth part red brown. Sternum pale blackish brown. Palp and legs pale yellow brown except the patella, tibia and metatarsus of first leg black brown. Opisthosoma dorsum shiny green black of scales, with a yellow central stripe. Venter and lateral of opisthosoma yellow. Triangle black spot between epigastric furrow and spinnerets.

Table 1. Spination of legs of *Hyctia hiroseae*

		Femur	Patella	Tibia	Metatarsus
Palp	dorsal	1			
	ventral			2 - 2 - 2 - 2	2 - 2
	dorsal	1 - 1 - 1	1	1	
	prolateral	2 - 1		1	
	retrolateral				
	ventral	1 - 1 - 1		2 - 2 - 2	2 - 2
	dorsal	1 - 1			
	prolateral				
	retrolateral				
	ventral	2 - 1 - 1		2	2 - 1
	dorsal	2 - 1		1	2 - 1
	prolateral				2 - 1
	retrolateral				
	ventral	2 - 1 - 1		2 - 1	2 - 1
	dorsal			1	
	prolateral			1	
	retrolateral	1 - 1			

Description. Prosoma: anterior part almost straight, posterior part ovate, longer than wide, almost flat but not low, both sides subparallel. Eye area occupied 1/3 of prosoma, AME>AME=PLE>PME. ALE-PME-PLE line straight. A bundle of setae presents between AME and ALE, behind ALE. Chelicera with promarginal two teeth and retromarginal single tooth. Maxilla forward with brush on inner margin, proximal part narrow and wider to distal and 2.5 times longer than wide. Labium long spindle and 4/5 of maxilla. Sternum hexagonal clothed with white hairs, widest between coxae and those of (length:width=20:9). Leg formula: > > > . First leg robust and strong. Each

segment of legs black and white hairs, metatarsi and tarsi with white hairs. Tarsus with two claws and many scopula hairs. Spination of legs as shown in Table 1.

Table 2. Leg length of *Hycia hiroseae*

	Femur	Patella	Tibia	Metatar.	Tarsus	Total L.
Palp	5.7	2.5	2.2		5.5	16.0
	13.7	7.7	12.7	8.2	4.2	46.7
	10.7	6.2	7.5	5.7	3.5	33.7
	10.0	6.0	6.0	5.7	3.5	31.2
	13.2	7.2	10.0	8.5	3.5	42.5

The femur of palp in female with single spine, the other segments with white hairs, tarsus no claw. Opisthosoma long (length:width=2.5:1), anterior part round with black setae, posterior part narrow, widest at 2/5 from anterior. Longitudinal stripe presents. 3 pairs of spinnerets. Leg length as shown in Table 2.

Remarks. This species closely resembles *Hycia bina* (Hentz, 1845), but can be distinguished from the latter by the following characteristics: Structure of epigynum, spination of legs and opisthosomal pattern.

Locality. Tadanaejima Island (the other name is hebijima, belonged to Kozushima Islands), 26-VII-1936. This species was collected from Mt. Funaokayama Tottori Pref., 11-VIII-1937 (These specimens preserved at Tokyo Agri. Univ.).

Eymology. This species is dedicated to the Mrs. Aiko Hirose, who helped my study.

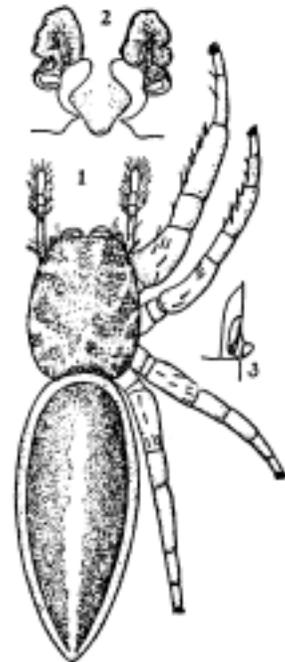


Fig.6. *Hycia hiroseae*

1. 1. Dorsal aspect.

2. Dissected epigynum. 3. Ditto, Profil.